

第3号議案

平成25年度事業活動計画（案）

特定非営利活動法人とともに

1 はじめに

就労支援事業・グループホーム事業を軸に、NPO法人として定款に掲げる目的を達成するため、地域のニーズを把握しながら、地域と連携し事業・活動を進める。

法人運営の安定化をはかるため、活動する人（会員・協力者）を増やし会費・寄付金を募る取り組みを積極的に行い、体力をつける。

2 事業

（1）特定非営利活動に係る事業

- ① 地域住民による「障害者と共に暮らすまちづくり」事業
- ② 障害者の生産支援活動、文化・芸術支援活動
- ③ 障害者の社会参加にむけた支援活動、及び障害者自立支援法に基づく事業
 - 障がい者就労支援事業所 ワークショップようていの運営
（個別事業計画1参照）
- ④ 地域で暮らす障害者の日常生活、住居等の支援活動
 - 住居資源の支援事業
 - 1）6軒のグループホーム運営の安定化を図る。（個別事業計画2参照）
 - 2）ケアホーム建設を実現する。「わっくわく事業」（個別事業計画3参照）
 - 3）住居資源のニーズを把握しつつ、ホームシェアリング事業の検討をすすめる。
 - 4）そのほか、地域に必要な支援内容の把握を行い検討する。
 - WRAP 集中クラス in くっちゃんの開催
- ⑤ 精神疾患や障害に関する理解と交流、広報活動
 - <講演会・研修会・交流活動>
 - みんなで学ぼうシリーズ（毎月開催を継続）
今年度は、多職種の講師による企画を検討する。
倶知安厚生病院への協力依頼を行い、共催とする。
 - みんなで学ぼうシリーズ 拡大版（春・夏）を開催する。
 - WRAP クラスの開催（4～5回を予定）
 - こころのルネッサンス in くっちゃんの後援
 - その他

<広報活動>

- 「通信ともに」は年3回以上の発行を目指す。
- ホームページは、閲覧した人が法人の活動に賛同し協力していただけるような内容の充実をめざす。
- ブログ更新をすすめ、法人の活動と羊蹄山ろくの障がい者支援の最新情報を発信する。
- 法人のイベント開催、ならびにワークショップようていが製作した商品の情報を新聞社などのマスコミに提供する活動を行う。

⑥地域内外の福祉関係団体などとの連携活動

- 羊蹄山ろく地域自立支援協議会参加 毎月定例会に出席する。
 - ・相談支援事業担当者会議
 - ・就労支援部会
 - ・地域活動支援センター夢の匠サポート部会
- 羊蹄山麓障害程度区分認定審査会から委員推薦の依頼があり、委員の推薦を行い任命された。審査会に出席し地域福祉行政に貢献する。

⑦前各号の事業に附帯する事業 なし

(2) その他の事業

なし

3 組織の運営安定化、拡充活動

(1) 理事会の開催

毎月1回定例開催する。

(2) 正会員30人、賛助会員個人会員50人、3団体を目指す。

(3) 寄付金目標100万円

認定NPO法人取得をめざす。日常的に寄付金を募集する。

※ 寄付金ならびに会員の増加に向け、広報活動を有効に活用する（ホームページ、ブログ等のIT手段から、草の根の対面広報まで取り組む）。

(4) 助成金活用

企業・団体が行っている助成金事業の情報収集と活用に努める。

[個別事業計画 1]

平成 25 年度 障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 事業計画（案）

- 1 利用者への適切なサービスの提供を行なう。
 - ① 就労に向けた個別支援計画の作成と、定期的なモニタリングの実施、他機関と連携を取りながら、利用者の自己実現を目指す。
 - ② 作業訓練、就労訓練、レクリエーション活動を通して、就労に向けた支援をする。
 - ③ 利用者の作業環境の改善に努める。
 - ④ 職員の資質向上のために研修参加や勉強会などの機会をつくる。
- 2 就労移行支援と就労継続支援 B 型のサービスの違いを明確にする。
 - ① 就労移行支援
 - 利用者の一般就労を目指した支援をすすめる。
 - 就職活動に向けたトレーニングプログラムを計画し、実行する。
(履歴書添削、ハローワーク同行、職場面接練習、コミュニケーショントレーニングの実践など)
 - 障がい者就業・生活支援センター等と連携し、就職を希望する利用者の就労前後のサポート体制作りを努める。
 - 障がい者合同企業面接会への参加を目指す。
 - 就労移行支援利用者も部門に登録し、作業訓練に参加してもらおうが、就職活動を優先する。
 - ② 就労継続支援 B 型利用者の就労を目指した作業訓練をすすめる。
 - 前年度に引き続き、各部門別に分けた作業活動を実施し、利用者は所属した部門を中心に活動する。今年度はより実際の仕事をイメージしながら作業に取り組めるように努める。
 - ☆ 農業部…夏期は農作業、冬期は除雪作業をする。
 - ☆ 事務・調理部…食事の調理および事務作業をする。
 - ☆ 製造部…織物、編み物、木工芸品などの商品製作、廃油石けん、手すき紙製作などを行う。
 - 利用者の工賃向上をはかる。
 - 各部での作業活動はより売れる物を作ることを目標にし、販路拡大にも力を入れる。また現在の販売先との関係維持に努める。
- 3 事業所外で働く場所の開拓をすすめる
利用者が現場実習できる受け入れ場所をさがす。

4 事業経営の安定化を図る。

- ① 安定した利用人数を維持するため、新規利用者の開拓を継続する。
- ② 現在の送迎体制を維持し、他町村から送迎があれば利用したいというニーズがあれば、実施できるような職員体制等の整備をすすめる。

【個別事業計画 2】

平成25年度グループホームよろこび 事業計画（案）

1、はじめに

昨年度の5住居に加え4月から新たに1住居増やし、退院予定者2人が入居する予定である。昨年初めて2人の利用者が自立により退去した。今年度も本人の希望に沿った自立への支援を行い、嬉しい退去者を増やしていく。

今年度は、昨年までの支援内容の見直しを行うことと、防災訓練・災害時用の防災グッズの準備等防災対策の整備が重要課題である。

2、健康的な生活を送るための支援にポイントをおき、個別支援計画を作成し実践・評価・改善の定着を目指す。

- 世話人の資質向上のため研修を継続する。
- ケース会議・家族参加のケア会議の定例化を維持する。
- アセスメント・モニタリングの定着。

3、非常災害・防災について

- 非常災害・防災に関する訓練と関係機関・町内会との連携。
- 火災に関して防災・防火設備の充実。
- 緊急時に備えた対応・備蓄の整備。

4、食生活と健康に関する勉強会の実施

- 保健師・栄養士による勉強会の実施。

5、生活面での自立にむけた支援

- 金銭管理・日中の過ごし方（日中活動）・調理実習についてなど自立にむけた個人の支援計画をもとに段階別に行い、必要時関係機関の協力を得る。住居ごと、または合同で行う。

6、その他、利用者からの要望に応えられるよう利用者とともに話し合いを進める。

7、入居を希望される方の優先順位については、当法人理事会内の「判定委員会」において決める。

—平成25年度の重点目標—

『健康的な食生活への支援・生活のリズムを作る（日中活動）』

【個別事業計画 4】

平成 25 年度 「障がい者の高齢者も共に元気に暮らすわっくわく事業」 事業計画（案）

1、はじめに

羊蹄山ろく地域において、精神障がい者の夜間の見守りなど支援を行うケアホームが

なく、精神障がい者の長期入院の原因ともなっている。

建設候補地や資金のめどがたちつつあり、今年度中に「ケアホーム・本部事務所建設」を実現する。

俱知安町福祉課の後押しをいただき、国の助成金「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金」（上限額 3000 万円）を町の主導のもと支給申請している段階である。

2、今後の予定

- 支給決定があるかないか、5 月末に内示がある。
- 交付金の額によっては、計画縮小を検討する。
- 地主との正式な土地賃貸借契約を結ぶ。
- 建設業者は入札により決める。
- 年内着工、3 月末日までに報告書など全手続きを終了する。

3、建設資金の借りに関して

- 個人から 5000 万円貸付の申出をいただいた。
- 建設費以外の家具や調理器具など設備投資については、今後の進展状況により、そのつど理事会で検討し決定する。

※ 町内会総会説明資料、および町福祉課提出事業計画を参照ください。